

諸外国の学校における道徳教育

	アメリカ	イギリス	ドイツ	フランス
対応する教科等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「キャラクターエデュケーション (Character Education)」や「価値教育 (Values Education)」などの名称がある。特に定まった教科はない。 ～ キャラクターエデュケーションを必修と定めている州もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「市民性」 (Citizenship) ○ 「PSHE」 (Personal, social and health education) 人格および社会性の発達のための教育・健康教育 ～ 特設時間、他教科等様々な場面で展開される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「倫理」、「哲学」等、名称は州によって異なる。 〔主に正科である「宗教科」の代替科目〕 ※ 宗派による宗教教育が基本法によって正規の科目と定められ、ほとんどの州で必修となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科「公民」のほか、学校の教育活動全体を通して、「市民性教育」 (Éducation à la citoyenneté) を実施。
配置されている学年*	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校に任されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「PSHE」と「市民性」の融合； 1-6 [5~10歳] ○ 「市民性」； 7-11 [11~15歳] ○ 「PSHE」； " ["] 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 5-13 [10歳~18歳)の間で設置。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-12 [6歳~17歳]
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○ キャラクターエデュケーションを実施する多くの州に共通する内容としては、①<u>信頼</u>、②<u>責任</u>、③<u>尊重</u>、④<u>公正</u>、⑤<u>思いやり</u>、⑥<u>市民性</u>の6つがある。 ○ 主に、学校専任のカウンセラーがプログラムを企画・実施している。近年では、プログラムにサービスラーニング (社会体験学習) を取り入れる学校が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「市民性」； 情報に通じた市民になるための知識と理解、探究やコミュニケーションのためのスキルの発達、参加と責任ある行動のためのスキルの発達など ○ 「PSHE」； 自信と責任性の発達や自分の能力を最大限発揮させること、健康的で安全なライフスタイルの発達、人との良い関係をつくること、人との違いを尊重することなど 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ブランデンブルク州の「生活形成・倫理・宗教」では、以下の6つのテーマ領域を設定している。 ①社会的な諸関係、 ②実存的経験 ③個の発達課題 ④世界、自然、人間 ⑤世界像、文化、文化相互のかかわり ⑥平和と正義—世界への希望 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科「公民」における学習は、集団を形成する市民として民主主義に関わる諸価値をはぐむことを目標としている。したがって、社会倫理 (他者との共生、権利・義務、個人の尊厳、愛国心、社会生活の基本としての法制的認識と自律的市民としての行動原理など) に重点が置かれている。 ○ 「市民性教育」は、各学校が独自にテーマを設け、教科横断的学習や体験活動を行う。

	韓 国	中 国	シンガポール
対応する教科等	○「道徳」	○「品德と生活」 ○「品德と社会」 ○「思想品德」 ○「思想政治」	○「公民と道徳」 (Civics and Moral Education : CME)
配置されている学年*	3-10 [8~15歳] ※上のほか、 ・ 1-2 [6・7歳] では、「正しい生活」 ・ 11-12 [16・17歳] では、「市民倫理」、「倫理と思想」、「伝統倫理」から選択	○品德と生活; 1-2 [7~8歳] ○品德と社会; 3-6 [9~12歳] ○思想品德; 7-9 [13~15歳] ○思想政治; 10-12[16~18歳]	* 1-10 [6~15歳]
内 容	○ 内容項目は、 ①個人生活 ②家庭・近隣・学校生活 ③社会生活 ④国家・民族生活 の4つの視点で分類されている。	○品德と生活; 健康で安全な生活、楽しく積極的な生活、責任と思いやりのある生活、頭脳を働かせ創造性のある生活 ○品德と社会 成長する私、私と家庭、私と学校、私と地域、私は中国人、世界に向かって ○思想品德 成長する私、私と他人との関係、私と集団・国家・社会との関係	○ 6つの徳目 ①尊重、②責任感、③正直、④思いやり、⑤適応力、⑥協調心 ○ 近年、コミュニティ奉仕プログラムやサービスラーニングなどの体験学習が重視されるようになっている。

(参考)

日 本
○「道徳の時間」 ※ 道徳教育は、「道徳の時間」を要として学校の教育活動全体を通じて行うこととされ、「道徳の時間」はこれらを補充・深化・統合するもの。
1-9 [6~15歳]
○ 道徳教育の内容項目は、 ①主として自分自身に関すること ②主として他の人とのかかわりに関すること ③主として自然や崇高なもののかかわりに関すること ④主として集団や社会とのかかわりに関すること の視点で分類されている。

*「配置されている学年」については、就学開始年から通年した表記としている。

〔「道徳・特別活動カリキュラムの改善に関する研究—諸外国の動向—」(平成14年3月国立教育政策研究所)及び「諸外国の教育課程(2) 教育課程の基準及び各教科等の目標・内容構成等」(平成19年3月国立教育政策研究所)を基に作成〕